

場面④隅田川――

訳21なおもどんどん進んで行つて、
武蔵の国と下総の国との間にた
いそう大きな川がある。

訳22それを隅田川という。

訳23その川のほとりに集まり座つて
（遠く離れた都に）思いを馳せ
ると、限りなく遠くへ来てし
まったものだなあ、と（皆で）
つらい気持ちを嘆き合っている
と、

訳24渡し守が、「早く舟に乗れ。日
も暮れてしまふ。」と言うので、
訳25（舟に）乗つて（川を）渡ろう
とするが、人々は皆なんとなく
つらい。京に思う人がいないわ
けではないのだ。

問一　いつ頃の話か？

ア　夕方　イ　昼過ぎ　ウ　日没後

訳21なおもどんどん進んで行つて、
武蔵の国と下総の国との間にた
いそう大きな川がある。

訳22それを隅田川という。

訳23その川のほとりに集まり座つて
(遠く離れた都に) 思いを馳せ
ると、限りなく遠くへ来てし
まったものだなあ、と(皆で)
つらい気持ちを嘆き合っている
と、

訳24渡し守が、「早く舟に乗れ。日
も暮れてしまふ。」と言うので、
訳25(舟に) 乗つて(川を) 渡ろう
とするが、人々は皆なんとなく
つらい。京に思う人がいないわ
けではないのだ。

問二 傍線部の理由として可能性が
もつとも高いものを選べ。

ア初めての川に恐怖を感じたから。
イ川を生死の境目と感じたから。
ウ大きな川で都とのつながりが断た
れてしまいそうだったから。

ここは空白ページです